gusuku Deploit ～基本操作手順マニュアル～

gusuku Deploit でバックアップ機能を利用する

本マニュアルは2026年7月に全面リニューアルしたgusuku Deploitに合わせて記載を更新しております。

目次

1. 概要

2. 注意事項

3. バックアップ

    3-1. バックアップについて

    3-2. バックアップの手動実行方法

    3-3. バックアップの定期実行方法

4. リストア

1. 概要

バックアップ機能は gusuku Deploit の標準機能です。

バックアップ機能を利用すると、kintoneに入っているレコードデータのフルバックアップや、アプリを選択してフルリストアなどを行うことができるようになります。

今回は、kintoneで**「開発環境」「本番環境」**という2つの異なるスペースにあるアプリで、本番環境に入っているデータを開発環境でも利用するというシナリオで、本番環境から開発環境にデータをコピーしてみたいと思います。

2. 注意事項

gusuku Deploit はkintone同様、ブラウザからアクセスして利用するサービスです。

原則kintoneとセットでご利用いただくもので、単体ではご利用いただけません。

また、**kintone API** に準拠して設計されているサービスになります。

kintone APIにおいてサポートされていないことは本サービスでも機能としては実装されていませんのでご了承下さい。

gusuku Deploit サインイン画面：

https://app-deploit.gusuku.io/

3. バックアップ

3-1. バックアップについて

gusuku Deploit で管理しているアプリは、レコードのバックアップを取得することができます。

今回は本番環境にあるアプリにデータが入っている想定で、そのデータのバックアップを取得し、

開発環境にある空のアプリにデータをコピーします。

バックアップの取得方法は以下の2パターンがあります。

アプリの運用ポリシーに応じて選択して下さい。

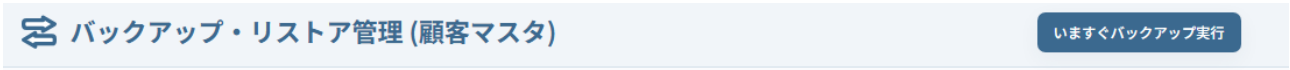
- 手動実行（ボタンをクリックしてそのつど実行）
- 定期実行（日次で深夜～早朝の時間帯に自動実行）

3-2. バックアップの手動実行方法

gusuku Deploit のアプリの詳細画面の「その他」メニューから「バックアップ/リストア」をクリックし、バックアップ・リストア管理画面を表示します。



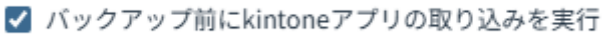
バックアップ・リストア管理画面で「いますぐバックアップ実行」ボタンをクリックします。



バックアップ実行のダイアログが表示されますので、特にメモなども変更がなければ「実行」をクリックして下さい。

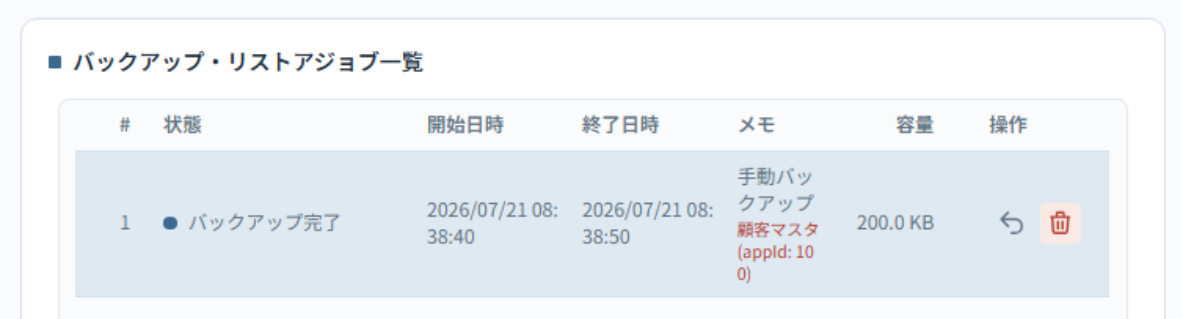


バックアップの際、アプリの取り込みも同時に行うことができます。



手動実行の場合は、削除も手動で行う必要があります。

バックアップ・リストアジョブ一覧の右側にある削除ボタンをクリックすると確認ダイアログが表示されますので、内容を確認して削除を実行してください。





新しくバックアップを取得された場合は、古くなったデータは削除していくようにしましょう。

古いデータを削除せずに放置されたままにすると、ディスク容量を消費します。

このディスク容量は、ご契約いただいているプランの上限に影響します。

3-3. バックアップの定期実行方法

バックアップの定期実行は定期バックアップを「実行中」に設定するのみとなります。

定期バックアップを実行中にすると、次回の実行予定時刻が表示されます。



定期バックアップで取得されたデータは**7世代**維持されます。

7世代を超えた古いデータから順次自動的に削除されますので、手動で削除を行う必要がありません。

4. リストア

バックアップで取得したデータをkintoneアプリにリストアすることができます。

リストアは、取得元のアプリに対して行うことも可能ですし、マトリックス上で1行に並んでいるアプリであれば、別のアプリに対してもデータをコピーすることが可能です。

本番環境のアプリからバックアップしたデータを、開発環境のアプリにリストアしてみましょう。

リストアは、バックアップ・リストアジョブ一覧の右側にあるリストアボタンをクリックして選択します。



ダイアログが表示されますので、ここからリストア先を指定します。

今回は**取得元アプリではなく、開発環境のアプリ**を選択します。

リストア時にはメモの入力が必要なので、メモを入力し「実行」をクリックします。



リストアの履歴は、リストア先のアプリのバックアップ・リストアジョブ一覧から確認をすることができます。



リストアできているかどうかを、実際にkintoneアプリでも確認してみましょう。



バックアップ・リストア時の注意点

- バックアップは、kintoneのレコードデータのみのバックアップとなります。
- kintoneのレコードデータ＝テーブル内のデータ、添付ファイルを含む。
  コメント、プロセス管理のステータスはリストア対象に含まれません。
- 配布先に同一の組織、グループ、ユーザー、およびアプリが存在していない場合は、リストアに失敗します。
- リストア時「既存レコードを消さずに追記でリストア」を選択しなければ、リストア先にすでに入っているデータがあれば、まずそのデータを削除した上でデータのリストアが行われます。
- 「既存レコードを消さずに追記でリストア」を選択せずに、バックアップ元kintoneアプリに直接データをリストアすることは、全レコードを失う非常に大きなリスクを伴います。
  正しくデータがリストアされるかをご確認いただくため、別環境に一度同一のレコードが空のアプリを作成いただいた上でリストアできることをお試しください。問題がないことを確認したのち、バックアップ元にリストアすることをお勧めいたします。
- レコード番号はkintoneの仕様上、同じ番号をそのままリストアすることができません。
  そのため、レコード番号などをキーにしてルックアップなどを設定されている場合は、リストアによりルックアップしてくる結果が異なる可能性があります。
- バックアップデータは、その時のkintoneアプリのフィールドの型に応じた形式になります。
  例えば、古いデータなどを利用してリストアされる場合、そのデータを取得した時のアプリの構造と、現在のアプリの構造が変わっていると（フィールドが変更されていたり、削除されている、あるいはドロップダウンなどのリスト項目が異なっているなど）正常にリストアできない可能性があります。
- レコードデータのバックアップを取得される場合には、その時のアプリも「バックアップ前にkintoneアプリの取り込みを実行」で一緒にバックアップを取得していただくことをお勧めします。